

まちかど・ズームIN!

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

昨年度活躍した小中学生を顕彰

吉見教育基金顕彰式

3月27日、文化・スポーツ活動で優秀な成績を収められた子どもたちを顕彰する、吉見教育基金の顕彰式が市役所で行われました。



この基金は、平成9年3月に閉園した和洋裁学校「吉見学園」からの寄付金を基に創設されたもので、今回顕彰されたのは、次の個人5名、団体4団体の方々です。(敬称略)

団体 白石中合唱団、白石中新体操部、東中男子新体操部、東中合唱団
個人 板橋竜貴、八島圭吾(以上大鷹沢小)、草野美紀、大場有紀子(以上白石中)、渡辺みか(東中)

青少年健全育成に役立てて 白石ライオンズクラブが市に寄付



白石ライオンズクラブ(会長:山田宜さん)では、青少年の健全育成に役立ててと、4月7日、役員の方々が市庁舎を訪問し、啓発用立て看板5基と街頭巡回指導員用の腕章50枚の目録を川井市長に手渡し、市に寄付されました。

立て看板は、市内中学校5校に設置され、「おはようと朝の一声気持ちよく」など、各校の生徒が考えた標語が記されています。腕章は、街頭を巡回する指導員が身につけ、青少年の健全育成に役立てられます。

地域で学べる喜びをかみしめて

角田養護学校白石校開校

4月10日、白石第二小学校内に、空き教室を利用して、角田養護学校小学部の分校「角田養護学校白石校」が開校しました。既設校への養護学校の分校設置は、県内で初めてです。

同校には、市内や蔵王町、七ヶ宿町から9人の児童が通学しますが、通学時間の大幅な短縮や、第二小学校児童との相互交流も計画されるなど、児童や保護者たちは、地域で学べる喜びをかみしめていました。

来年4月には、白石中学校内にも中学部が設置される予定です。



第二小学校の児童も歓迎の演奏を披露

ケアハウスやまぶきで美声を披露 キューブジュニア合唱団移動発表会



3月29日、キューブジュニア合唱団に所属する小学生12人が、福祉の里内のケアハウスやまぶきを訪問して、移動発表会を催しました。

団員たちは、ケアハウスの入居者約30人を前に、ディズニーメロデー「ふるさと」などの合唱を披露し、「いつまでもお元気で」などと書かれたメッセージカードを配るなどして、入居者と交流しました。

同合唱団では、移動発表会を今年から始め、今後も福祉施設などへの訪問を計画していくとのことです。
ホワイトキューブ ☎22-1290

自然・環境を守る市民の象徴

水芭蕉の森開園

4月11日、南蔵王に春の訪れを告げる風物詩、福岡深谷地区の「水芭蕉の森」が開園しました。



今年の水芭蕉は、3月中旬に降った雪の影響で、例年より一週間程度遅い開花となりました。

バックに「蔵王霊歌」が流れる中開園式が行われ、この日を待ちかねた見物客約100人が、所々に雪の残る園内を思い思いに散策し、白い妖精のような水芭蕉にうっとりとして見入っていました。

自分たちの公園を美しく つくし公園まつり

4月6日、田町地区のつくし公園で、恒例のつくし公園まつりが開かれ、公園を利用している家族連れなど約100人が参加しました。



この日は、前日までの雨も上がって青空が広がり、「みんなの公園」をきれいで楽しい公園にと、参加者全員で、200株の色とりどりのパンジーを植えました。

その後は、人形劇や春にちなんだ歌を鑑賞するなど、参加者たちは楽しい春の一日を過ごしていました。

ごみを捨てる人は大キライだよ!

東保育園で卒園記念に看板設置



東保育園では、市のISO14001取得に伴い、環境に配慮した責任ある行動がとれる子どもになるよう、散歩コースの空き缶や紙くずを拾い集めるなど、環境美化教育に積極的に取り組んでいます。

3月18日には、卒園する5歳児の10人が、卒園記念に「ポイ捨てはやめましょう」などと描いた手づくりの看板を、近くの公園や道ばたに設置しました。

園児たちは、「一年生になってもごみ拾いががんばるよ」と環境美化への思いを心に焼き付けていました。

ハガキに交通安全の思いを託して 交通安全さくらメール作戦



急増している高齢者の交通事故対策の一環として、白石第一小学校と白石第二小学校の全校児童1,310人が祖父母にあてた、交通安全のメッセージをハガキで伝える、「さくらメール作戦」の出発式が4月11日、白石郵便局駐車場で行われました。

式典後、付託を受けた郵便局員たちが、小学生の思いをバイク20台に乗せて、一斉に出発して行きました。

5月11日から20日までの10日間には、市内各地で春の交通安全運動が一斉に行われます。

四月三日、教職員服務宣誓式が市役所内で行われた。教育委員長に続いて、私は次のような挨拶をした。
「私が生涯を通じてありがたく思っていることは、小・中学校、高等学校、大学と恩師に恵まれたことです。反面、生涯の悔いと思っているのは、私を産み育ててくれた白石を愛し、この町にプライドを持つことを教えてくれる地域の人と出会わなかったことです。ですから四十代前半まで、いかにして白石を脱出するかばかり考えていました。先生方にお願います。子供達に、白石が素晴らしい町であることを教えてください。そして、自分の住むこの町に誇りを持つ市民を育てて頂きたい。」



川井市長の
せせらぎトーク

分校

茅野静逸さんは私のゼミの後輩で、平成十一年三菱銀行の専務取締役を経て、三菱金曜会の専務局長をやっている方だ。彼の自伝史の中に、「星昭衛君」という項がある。
星昭衛さんは茅野さんの高校時代の親友で、新潟県小千谷市の山奥にある十二平分校の先生をしていた。小千谷駅前の交番で十二平へどうやって行くかと尋ねると、お巡りさんが「お前さん、やめときなさい、すこい山ん中らいいね、あんがとこ行く者なんて気が知れないで。」と言われる。タクシードで行けるところまで行って、そこから歩いて二つ目の集落が十二平分校であった。星さんは集落の人たちから、神様のよう

に尊敬され、身内のように親しまれていた。「一杯飲もう」と学校から歩いて三十分かかる酒屋で、焼酎とつまみを買って、帰りは分校まで、店の息子が二人をリヤカーで送ってくれた。近くのおばあちゃんが差し入れてくれた鯉こくを食いながら、「おまえは日本一の先生になれ。」「貴様こそ世界一のバンカーになれ。」と一晩を過ごす。
翌日、茅野さんは音楽のニワカ先生になって、ロシア民謡をがなりたてた。翌年二月、星さんから手紙が来た。「君のお陰で先日命拾いをした。用があつて町に出たら、雪が深くなつて行き倒れてしまいそうになった。もう駄目かと思つていたら、郵便局員が雪の中を歩いて助けてくれた。たまたま君が送つてくれた手紙を届けに十二平へ来る途中だったのだ。」と。その星先生は、四十歳前後で帰らぬ人となった。
茅野さんは現在、郷土、新潟県の教育委員会からキャリアアドバイザーを委嘱され、高校生のために講演会を開いているといふ。志半ばで倒れた親友、星昭衛先生の

遺志を継いでいるのである。
今、日本の経済は真つ暗闇である。政治家やエコノミストは、「日本は重病だ。日本はほとんど貧しくなる。」などと言っている。これではダメだ。日本は滅びてしまふ。
私は回り道かも知れないが、根本的な処方箋は教育の改革の中にあると思う。クリントンがアメリカの教育を立て直すと言つて、大統領選に勝利した。ブッシュも教育を称えた。イギリスのブレア首相も就任演説で、一に教育、二に教育、三に教育と言つた。教育を重視することは世界の潮流になっている。
茅野さんが十二平分校を訪れたのは、昭和三十五年十一月の話だといふ。今時タクシードを降りて、かつ、二つ目の集落を歩かなければならない分校など無いだろう。反面、過疎の中、緑も人情も子供も、そしてプライドが失われつつある。